

28 畜産生産能力・体制強化推進事業

【526（396）百万円】

対策のポイント

繁殖基盤の強化を図るため、肉用牛の繁殖肥育一貫経営や地域内一貫生産を推進するとともに、生産基盤強化に向けた肉用牛・乳用牛・豚に係る家畜改良等を支援します。

<背景／課題>

- ・我が国畜産の安定的な発展、競争力強化のためには、優れた個体の選抜・利用による家畜能力の向上と家畜の能力を十分に発揮させる飼養環境づくりが重要です。
- ・また、肉用牛生産において、高齢化や離農の進展により農家戸数や飼養頭数が減少するなど、生産基盤の弱体化が懸念されています。
- ・このため、高能力な家畜を生産するための家畜改良、家畜の能力を十分に発揮するための個体管理を推進する取組等を支援するとともに、肉用牛の繁殖肥育一貫経営や地域内一貫生産を推進することにより、畜産の生産基盤の強化を図る必要があります。

政策目標

- 生乳の生産量：745万トン（平成25年度）→750万トン（平成37年度）
- 牛肉の生産量：51万トン（平成25年度）→52万トン（平成37年度）
- 豚肉の生産量：131万トン（平成25年度）→131万トン（平成37年度）

<主な内容>

1. 家畜能力等向上強化推進

遺伝子解析情報等を活用した新たな評価手法による生涯生産性の向上、多様性を確保した家畜の系統・品種の活用促進、肉質・繁殖能力の改良の加速化等を推進する取組を支援します。

（補助率：定額、1／2以内
事業実施主体：農業者集団、民間団体）

2. 牛の個体識別情報活用の効率化・高度化対策

牛の個体識別番号をキーとして飼養管理等の生産関連情報を全国ベースで利用できる体制を整えることにより、家畜改良及び飼養管理の効率化・高度化を推進する取組を支援します。

（補助率：定額、1／2以内
事業実施主体：民間団体）

3. 繁殖肥育一貫経営等育成支援

肉用牛生産の構造改革を進め、繁殖基盤の強化を図るため、肉用牛肥育経営の一貫化や地域内一貫生産を推進する取組を支援します。

（補助率：定額、1／2以内
事業実施主体：農業者集団、民間団体）

[お問い合わせ先：生産局畜産振興課（03-6744-2587）]

1 家畜能力等向上強化推進

生産基盤の強化を図るため、遺伝子解析情報等を活用し、

- ・ 長命連産に優れた乳用牛の生産を進める取組
- ・ 近交係数の上昇抑制に配慮した和牛生産体制を確立する取組
- ・ 肉質及び繁殖成績を効率的に高めるための種豚選抜を進めるための取組

等により、家畜の多様性を確保しつつ能力を向上させる取組に対して支援。

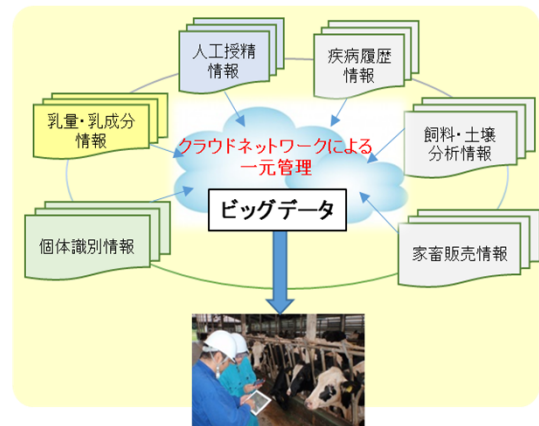


2 牛の個体識別情報活用の効率化・高度化対策

牛の個体識別番号と生産情報を活用し、飼養管理の効率化・高度化を図るため、

- ・ 関連情報をクラウドネットワークに一元管理する拡張性の高いシステムを構築する取組
- ・ 全国どこからでも生産者が利用できるシステムを構築する取組

等に対して支援。



3 繁殖肥育一貫経営等育成支援の概要

生産の現状

- ・ 繁殖経営の平均飼養頭数は14頭/戸
- ・ 10頭/戸未満層が約7割を占める構造
- ・ それらの経営では、高齢化が進行
- ・ 飼養戸数が減少し、子牛供給に懸念

課題

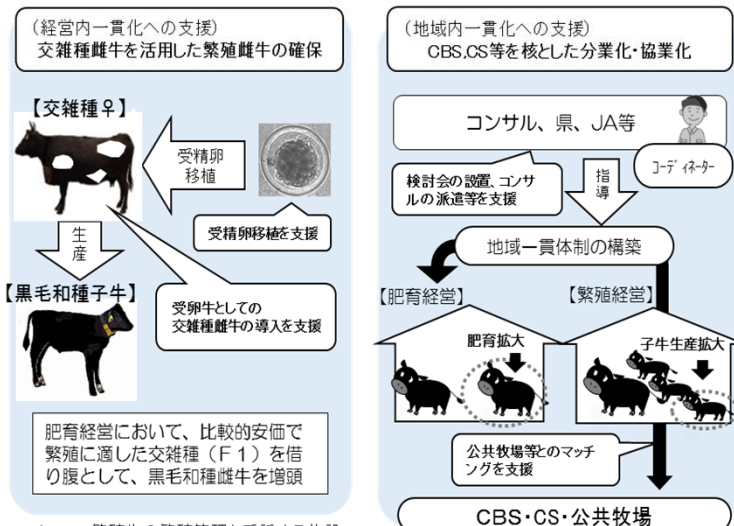
- ・ 牛肉の生産拡大を図るためには繁殖基盤の強化が必要
- ・ 子牛価格の変動に左右されず、子牛の安定供給が可能な繁殖・肥育一貫生産の拡大が必要

○肥育経営からの経営内一貫化

大規模肥育経営が繁殖部門を開始することにより、繁殖雌牛の飼養規模の拡大を図り、肥育素牛を安定的に確保。

○地域内の分業化等を通じた一貫化

CBS、CS等を核とした分業化・協業化を通じて、地域ぐるみで繁殖雌牛を増頭。



肉用牛生産の拡大

目指す姿

以下の様な規模の経営において子牛供給の過半を目指す

〔繁殖雌牛50頭以上層の頭数割合は現在約3割〕

繁殖・肥育一貫の大規模法人経営

- 【飼養形態】繁殖牛300頭
- 育成牛200頭
- 肥育牛500頭

放牧やCBSの活用により規模拡大を図る繁殖経営

- 【飼養形態】繁殖牛80頭

(注) 酪肉近(H37目標)に掲げる肉用牛経営の指標

(注) CBS: キャトル・ブリーディング・ステーション。繁殖牛の繁殖管理を受託する施設。
CS: キャトル・ステーション。子牛の哺育・育成を受託する施設。